

平成24年度事業報告

～まえがき～

平成24年度は、公益財団法人としての新たなスタートを切った年度でありました。自らが食品廃棄物リサイクルや食品廃棄物排出抑制に係る事業に取り組む一方、公益性を前面に出した施策への取り組みを行うことを念頭に、会員をはじめ、より広範な一般消費者をも対象とした食品廃棄物リサイクルや排出抑制を推進する上で一番の基礎となる「それらの理解の増進」を進展させるべく、啓発に資する各種事業に本格的に取り組んだ最初の年でありました。

～事業の報告～

1. 啓発事業

事業の中心のひとつに**啓発事業**を位置付け、各種施策の定着を図ることに全力を挙げました。

一市民として最低限知っておくべきその時点での国内外の環境にかかわる情報や食品廃棄物のリサイクルに関する情報を提供するほか、財団の諸活動の報告を通して財団認知度を促進するために前年度からスタートした「**財団だより (N.L.と呼称) の発行**」は計画通り年3回の発行を致しました。平均発行部数は400部を印刷、会員企業、個人会員、関係機関、監督官庁、交友関係のある諸団体にお届けしたほか、講習会や各種イベント時に希望者に配布することで啓発普及をはかりつつ、財団名の浸透に努めました。

また、食品リサイクルへの関心を高め、理解を更に深めるための定期的な勉強の場を設け、「**食リ・サロン**」と名付け、隔月の頻度で実施することが出来ました。広く消費者を対象にする観点からの主婦連合会、食品廃棄物を活かすエコフィード養豚普及の立場からの(一財)中央畜産会、サロンの告知と開催報告の広報を受け持ってくれる協力者としての日報ビジネス社の3団体が後援団体として協力してくれ、各回、平均で30～35名の参加者がありました。また、食品リサイクルやエコフィードの啓発普及に大いに役立つことができました。また、各回とも食品廃棄物リサイクルで生産された食品を試食するコーナーを設け、理屈だけでなく味わってみてもらい、消費者に向けたマーケットへの浸透も試みております。

この関連に於いては、食品廃棄物再資源化の現場がどのようなものか知って戴き、それらでできたものを利活用して生産された農畜産物を味わい、身を以

って体験できる**エコ・ツアー**を**9月、3月の2回開催**しました。各回ともバスの席数の制限いっぱい約30名の参加を得ております。9月は食品廃棄物肥料化ならびにバイオマス化施設を運営する千葉県の和郷園を、3月には食品廃棄物の液状飼料化施設運営の小田急フードエコロジーセンターならびにバイオマス化施設を運営する神奈川県三浦市の三浦バイオマスセンターを、それぞれ見学してもらいました。

また、食リ・サロンの本年度の学習のまとめを目的として、サロンの講師陣を中心にパネラーを構成した**フォーラム**を**2月に開催**しました。農水省のご後援とご支援も得て、フォーラムは約70名の参加があり、大変好評裡に実施出来ました。

尚、平成24年の事業報告ではありませんが、平成25年度の食リ・サロンを雪印メグミルクが社員教育の一環として、その関係者を参加させたいという話も戴いております。

2. 業務支援事業

当財団の本来のミッションである食品リサイクル構築のための**業務支援事業**においては、その一つとして、**食品廃棄物排出事業者のリサイクル構築支援業務**がありますが、構築取組みの第一段階として社内教育等に或いは一層の構築の進展を図るための社内外の支援獲得用にもエコツアーを活用してもらう視点から、都合5回実施することができました。

また、従来から進めてきた茂木町、あずみ野エコファームを核としたプロジェクトの本格化へのとっかかりとして、民主党政権による迷走で時期がづれこみ、期間も2カ月という極めて短期間の変則的な補助事業となり、結果として補助金額も小額でしたが、当財団を事務局とする、食品廃棄物リサイクルループ構築促進協議会を通しての補助事業（間接的な受託事業といってよい）を実施することができました。本プロジェクトは息の長い事業となり、更に進展を図って参りますが、所轄官庁からは、引続き、平成25年度も補助事業としての応募を奨められております。

業務支援事業のもう一つの柱は、食品廃棄物の排出抑制や食品リサイクルで大きな課題となっている『家庭生ゴミ』のコンポスト化の取組みをミッションのひとつとする、福岡県に本拠地を置くNPO法人循環生活研究所の関東圏での普及を支援する、一般の消費者を主な対象にした**ダンボールコンポスト支援事業**（ダンボールを使った生ゴミ堆肥化の講座の開講を支援する事業）を実施するものですが、平成24年度は八王子市の強い要望から、八王子市との共催の形で、都合12回の講座を実施致し、各回とも会場は満杯、啓発は

もとより当財団の名前の浸透に大いに役立たせて戴くことができました。

また、今後の更なる展開に鑑み、都度、博多から講師を招く資金負担を軽減する目的から、関東圏在住の講師を育てるため、1月に講師を養成する講座を東京で開催することも支援致しました。10名の受講者があり、講師として今後順調に育って行くことが期待されています。

3. 受託事業

事業の第3の柱である**受託事業**においては、先に申し上げた、茂木町・あずみ野エコファームプロジェクト（協議会を通してため、当財団の決算には計上されません）で農水省の補助事業を受託したほか、北陸の加賀市地域の食品廃棄物を含む廃棄物リサイクル事業に当財団の資源循環システム研究所(所長：加藤善盛理事)が参画し、成果に寄与するとともにそれに見合った収入を得ております。

～その他事項の報告～

1) 「平成23年度事業報告書ならびに決算報告書」を平成24年6月に内閣府に提出したほか、農林水産省にもご説明に伺いました。

2)、「平成24年度事業計画書ならびに収支予算書」を平成24年3月に内閣府宛提出致しました。

3) 会員数の状況について

期初の会員数は99であり、期中、賛助会員(民間団体)の категорияにおいて退会1、入会1（議題3でご承認戴きます）の変動がありました。各カテゴリー別会員数ならびに総会員数では、期初の数字がそのまま年度末での数字となりました。会員の内訳は以下の通りです。

1) 賛助会員	H24/ 4/ 1	H25/ 3/31
民間団体会員	65会員	65会員
公共団体会員	2会員 →	2会員
個人会員	23会員	23会員
2) 特別賛助会員	9会員	9会員
合 計	99会員	99会員

4) 会務の会合について

平成23年度の各種会合開催状況は次の通りです。

①理事会 4回開催
平成24年 5月14日
平成24年 9月11日
平成25年 1月25日
平成25年 3月15日

②評議員会 3回開催
平成24年 5月30日
平成25年 1月25日
平成25年 3月15日

以 上